ルセンティス□製品特性□未熟児網膜症

ルセンティス□製品特性

未熟児網膜症に対するルセンティスの特性

1. ルセンティスは、国内で初めて未熟児網膜症の効能又は効果を取得したVEGF阻害薬です。
2. 日本人を含む国際共同第Ⅲ相試験では、治療開始24週後のルセンティス0.2mgの治療成功率は80.0%でした（レーザー治療群は66.2%）。
   ※臨床成績を参照
3. 日本人を含む国際共同第Ⅲ相臨床試験では、ルセンティス0.2mgが投与された73例中11例（15.1%）に副作用が認められました。
   主な副作用は結膜出血6例（8.2%）でした。日本人患者では9例中2例（22.2%）に副作用が認められ、主な副作用は、結膜出血1例（11.1%）、角膜浮腫1例（11.1%）でした。
   （効能又は効果の一変承認時までの集計）
   なお、重大な副作用として、眼障害（1.5%；網膜出血、硝子体剥離、網膜色素上皮剥離、網膜色素上皮裂孔、硝子体出血、裂孔原性網膜剥離、網膜剥離、網膜裂孔、医原性外傷性白内障、失明、眼内炎）、脳卒中（0.1%；脳梗塞、脳出血等）が報告されています。
   ※電子添文を参照

Image

網膜症の情報は
網膜ドットコム
›

弊社製品についてのお問い合わせ

お問い合わせ

Source URL: *https://www.pro.novartis.com/jp-ja/products/lucentis/rop/feature*